

中村元 慈しみの心

1 総合

山陰中央新報

中村元 慈しみの心

No.375

やさしい言葉を語るとは教えを説き、時には論し、時には道理を説いて疑問を晴らしてやることである。
(釈迦)

〈解説〉はじめての訪問者に「ようこそ」と語りかける。「お元気か?」「お疲れさま」と声を掛ける。みな心なごむ言葉である。だれにも丁寧語を使う。さらに大事なことは道理にもとづく人の道を聞かせることである。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.11.20 中村元記念館協力

2016年(平成28年)11月20日(日曜日)

中村元 慈しみの心

No.374

布施は不貪なり。不貪といふは、むさぼらざるなり。むさぼらすといふは、よのなかにいふ、へつらわざるなり。
(道元)

〈解説〉布施は与えるの意。余ったから施す、惜しんで与える、恩を着せて与える、名を残すために寄付するなど、施す行いには心の模様が映る。施すではなく、むさぼらないことが布施の極意という。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.11.19 中村元記念館協力

2016年(平成28年)11月19日(土曜日)

中村元 慈しみの心

No.377

他を差別しないことは、〈自他ともに〉違いがないこと。私にもそむかず、他人にもそむかないこと。
(道元)

〈解説〉互いの人格を尊重する。たとえば親子、夫婦の関係も相互の人格を尊重するなら円満となる。親は子に、夫は妻に奉仕し、子は親を、妻は夫を愛するなら、争いはなくなると釈迦は説く。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.11.22 中村元記念館協力

2016年(平成28年)11月22日(火曜日)

中村元 慈しみの心

No.376

利行は一法なり。あまねく自他を利するなり。
(道元)

〈解説〉「他のためを思っている」とはただ一つ、己も他も利益を受けることである」の意。釈迦は善は義利(義理ではない)と説いた。つまり己のため、他のため、これから生まれてくるもののためになることが善という。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.11.21 中村元記念館協力

2016年(平成28年)11月21日(月曜日)

中村 元 慈しみの心

1 総合

山陰中央新報

中村 元 慈しみの心 No.379

心動けば、山河大地も動く。心動きなければ、風雲、鳥獣もその動揺なし。
(慈雲尊者)

△解説▽四季の移り変わりは心が演出している。冷暖、寒暑の差は心が教える。心が見て、感じて、触れてはじめて山河や大地は表現される。鳥獣も同じ。自然界の動きは人の心の表れである。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.11.24 中村元記念館協力

2016年(平成28年)11月24日(木曜日)

中村 元 慈しみの心 No.378

一切世間はみな妄想から生じている。三界は虚妄にして、これはただ一心の造作したものである。
(『華嚴経』)

△解説▽世界は無常であるので、ここに展開する事象で永遠不滅なものはない。しかし迷いの世界(三界)やさとの世界があると人は考える。それはただ妄想の産物で、空虚なものにすぎないという。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.11.23 中村元記念館協力

2016年(平成28年)11月23日(水曜日)

中村 元 慈しみの心 No.381

ガンス川に浮かぶ泡の群れは、中身が空っぽで、実体がない。そのように生類の肉体は見掛けだけで、空虚である。
(釈迦)

△解説▽部屋いっぱいの大きな風船でも一本の針でつぶれ、そこにはあわれなゴムの皮だけが残る。生類の肉体も作られたもので、病や老いの針ですぐに壊れる。残った白骨も消える。肉体は空虚と知るべきである。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.11.26 中村元記念館協力

2016年(平成28年)11月26日(土曜日)

中村 元 慈しみの心 No.380

心汚れるがゆえに衆生が汚れ、心浄きがゆえに衆生浄し。
(『維摩経』)

△解説▽仏典では、心は見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる、考えるの六つのはたらきを総じて表す言葉である。六つは相互にかかわり、投網の結び目のようで、一つが悪をすれば、他に波及する。一つの悪心は生類に波及する。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.11.25 中村元記念館協力

2016年(平成28年)11月25日(金曜日)